

# 自然と人の文化

多治見市文化財保護センターだより

## もくじ

- ・企画展「高田陶祖 400 年記念～高田焼の歩み～」・・・1 ・第 14 回 喜多町 西 遺 跡 公 園 ま つ り 開 催・・・3
- ・カワニナ 調 査 生 息 数 調 査 結 果・・・2 ・分室特別展示「陶都多治見～やきもの作りの歴史～」・・・4
- ・根 本 民 具 の 寄 付 と 調 査・・・2 ・将 来 の 夢! 職 場 体 験・・・4
- ・文 化 財 防 火 デ ー 関 連・・・3

## 企画展 **高田陶祖 400 年記念 ～高田焼の歩み～**

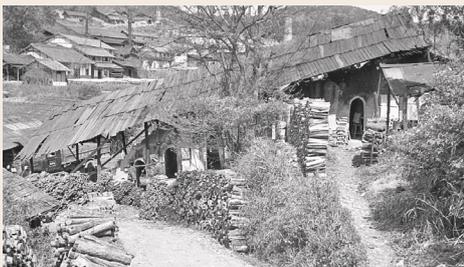
展示期間：平成 28 年 3 月 22 日（火）～8 月 26 日（金）

2016 年は、多治見市高田地区の陶祖加藤与左衛門景直が元和 2（1616）年に当地で窯を開いて 400 年目にあたります。その記念すべき年に高田陶磁器工業協同組合と連携して、本展を開催することとなりました。

高田・小名田の地は、陶祖が窯を開く以前から歴史のある地域で、中世には山茶碗やまぢやわんという庶民向けの素朴なやきものが、土地の利を活かして大量に焼かれていました。近世になって茶陶文化が開くと、いち早く桃山陶の代表ともいえる白天目茶碗や瀬戸黒茶碗などが小名田で生産され、当地はやきもの文化を発信する中心地のひとつでした。



▲ 高田陶祖碑



▲(上) 高田の登り窯  
(下) 湯たんぼの天日干し (昭和 32 年)  
(多治見市図書館郷土資料室提供)

高田では、現在まで連続とやきもの作りを行うことのできた最大の要因である陶土しろこが産出します。白粉土あおとという地域から産出する青土（白粉土）という陶土は、昭和 40 年代まで他地域への持ち出しを厳しく禁止して、大切に使われてきました。青土は、他の粘土と混ぜ合わせることなく単味たんみで使用でき、ロクロで引きやすいなどの性質があります。そのため、江戸時代中頃から高田・小名田で作り始められた徳利の成形に適していました。さらに、江戸では飲酒文化が盛んになり、高田・小名田で生産された徳利が通い徳利として爆発的に消費されました。明治時代に入ると、鉄絵具や呉須によって酒屋の店名や屋号が筆書きされた、現在に見る高田徳利が次々と生産されました。昭和になって徳利の需要がなくなった後も、時代のニーズに併せてこの青土の特性を最大限に活かした製品（汽車土瓶あみあしや網足、湯たんぼなど）が、高田・小名田地域から産み出されていきます。

19 世紀になると、美濃のほとんどの地域では磁器生産が始まります。しかし高田・小名田地域では、陶祖の景直が窯を開いてから 400 年間土味を活かした陶器製品を作り続け、独自の歴史を歩んできました。高田陶祖開窯 400 年を契機に、青土を使用したやきものを作り続けてきた陶工たちの真摯な姿勢を再確認しながら、高田焼のさらなる発展を願う展示としたいと思います。

# カワニナ生息数調査結果

市天然記念物である「北小木のホタル」の調査の一環として、毎年秋にホタルのえさであるカワニナ(巻貝の一種)の調査を行っています。今年度のカワニナ調査は平成 27 年 10 月 19 日に、ホタルの発生する北小木川と神明洞川の計 14 地点で行いました。今年は総合学習として南姫中学校 1 年生 48 名が、ボランティアと一緒に調査をしました。

今年は全体的にカワニナが多い年になりました。特に北小木川と神明洞川の合流地点よりも上流部でカワニナを多く確認することができました。また、カワニナの体長が全体的に少し小さいことと殻が多かったという特徴がありました。

これまでのホタルとカワニナの調査結果をみると、2 つのことが分かってきています。1 つ目はホタル数の増減が 3 年周期であることです。

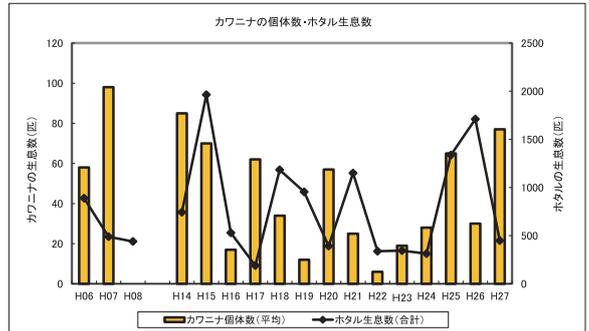
1 年目にホタル数の増加がピークを迎えたとすると 2 年目、3 年目は減り、4 年目にまた大発生する傾向にあります。2 つ目はカワニナの生息数の増減に比例して、翌年のホタルの生息数も増減するということです。カワニナが増えた年の翌年のホタルは増え、反対にカワニナが減った年の翌年のホタルは減る傾向にあります。

これらの法則を鑑みると、平成 26 年にホタルが大発生しているのに、平成 28 年のホタルは減ると思われます。しかし、カワニナ数とホタル数の関係性から考えると平成 27 年のカワニナ数は増加しているため、平成 28 年のホタルは増えると予測され、ホタル周期と相違が生じます。現時点では今年のホタルが減るのか、それとも 3 年周期が崩れるほどホタルが大発生

カワニナの平均個体数とホタル合計生息数  
(50cm×50cm、H16年、H17年カワニナ平均個体数は、調査地点の一部の平均値)

調査年月日	H06	H07	H08	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
カワニナ平均個体数(匹)	58	98		85	70	17	62	34	12	57	25	6	19	28	65	30	77
ホタルの計測数(合計)	888	489	439	743	1963	529	189	1183	954	391	1149	338	345	313	1337	1709	449

※H16以降のホタル数は三面張改修地点を含む



▲ カワニナの採取風景



▲ カワニナの個体数調査

するのか予測ができません。そのため今年以降のホタル、カワニナ数がどのような変化をしていくのか興味深いです。

今後も調査を続けていきデータを蓄積して、ホタルの保護に役立てていきます。

最後になりましたが、参加していただきました皆様には、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

# 根本民具の寄付と調査



じょれん  
▲ 鋤簾  
堀や水路の土砂、泥をすくい取る道具



だっこくき  
▲ 足踏み脱穀機



▲ 柱時計



▲ 作業風景  
蓄音機を動かしているところ

平成 27 年度、根本愛郷会・根本の歴史を語る会から文化財保護センターに、根本地区で集められた民具を一括寄付して頂けることになりました。そして、その民具を寄付して下さった方々と一緒に資料の調査を始めました。

寄付して頂く資料はおおよそ 150 点あり、実際に根本地区で使われていたもので、地域の歴史を知るまとまった資料として価値があります。中でも衣食住に関するものや農具が多いように見受けられました。鋤簾や足踏み脱穀機(写真)、田植えの前に牛に牽かせて土を掻き混ぜる代掻き具など、今では見る事が無くなった、時代を感じさせる道具がたくさんあります。

現在これらの資料を、根本から美濃焼卸団地内の文化財保護センター分室へ移動させており、これから 1 点 1 点整理して台帳作りを進め、学校や地域への活用につなげていく予定です。

また、この他にも毎年貴重な資料を多くの方々からご寄贈頂いています。これらの資料は文化財保護センターの収蔵品として大切に保管していますが、今後、昔の生活や様子を知ることのできる展示等を企画していきます。

## 文化財防火デー関連

毎年1月26日は文化財防火デーで、全国的に文化財防火運動が行われます。多治見市でもそれに合わせ、市内の文化財防火点検と永保寺の防火訓練が行われました。

### 文化財防火点検

1月13日(水)、18日(月)、19日(火)に、文化財を所有する施設の立入点検を行いました。多治見市消防本部・中部電力(株)多治見営業所のご協力の下、市内22ヶ所を回りました。各所有者の方は、日頃から適切な管理を心がけており、それによって文化財が守られていることを実感しました。

▼ 点検の様子 ▶



### 虎溪山永保寺の防火訓練

1月31日(日)午前9時から、虎溪山永保寺の防火訓練が行われました。永保寺保寿院付近で林野火災が発生し、国宝建造物の観音堂・開山堂に延焼の危険ありという想定のもと、消防関係者、永保寺自衛消防隊など約100名が参加しました。万が一に備え訓練を行うことで日頃から文化財消失への危機感を持ち、文化財保護の意識が広まるよう努力していきたいと思います。



▲ 放水準備の様子



▲ 放水の様子

## 第14回喜多町西遺跡公園まつり開催

平成27年10月31日(土)に、第14回喜多町西遺跡公園まつりを開催しました。喜多町西遺跡公園まつりは、弥生時代～古墳時代初期の住居跡などが多く発見された喜多町西遺跡を会場とした、大昔の生活を実際に体験しながら歴史を学習するイベントです。当日は小学生27名とその保護者が参加し、ボランティア7名にもお手伝いいただきました。

はじめに、復元された竪穴式住居の中で、喜多町西遺跡を紹介するスライドを上映し、遺跡や大昔の生活について学習しました。メインイベントとして、参加者全員で勾玉作りを行いました。子供たちは保護者やボランティアさんの手を借りながら、石を綺麗に削ろうと苦勞し自分だけの勾玉を完成させていました。勾玉作りの後はマイギリを使った火おこしや弓矢の射的、貫頭衣という古代の衣服を着るコーナーを自由に回って体験してもらいました。貫頭衣を着るコーナーでは、早速自分の作った勾玉を首にかけて撮影する様子も見られました。火おこしや弓矢も、初めて扱う道具に親子で試行錯誤しながら体験していました。

今回の体験が、歴史を学ぶ楽しさを知り、また多治見の歴史にも興味を持つきっかけになれば幸いです。

▼ 勾玉作りの様子



▼ 的に当たるかな？



▼ 火起こしに挑戦！



# たじみ茶碗まつり同時開催 分室特別展示「陶都多治見～やきものの作りの歴史～」

平成 27 年 10 月 11 日（日）、12 日（月・祝）に美濃焼卸団地で開催された第 38 回たじみ茶碗まつりに併せて、団地内にある文化財保護センターの分室を特別開館し企画展を開催しました。

茶碗まつりには多治見市外からの来場客も多いため、多治見市のやきもの作りの概要を知って頂きたく、古代の土器から近代の磁器製品までを年代順に展示しました。また、体験型の展示として、中世に多治見市で大量に生産された庶民の器である山<sup>やま</sup>茶碗の破片をパズルのように組み合わせて貰うコーナーも設置しました。2 日間で 200 名以上の来場があり、やきもの作りに携わってきた多治見市の歴史を、多くの方々に知って頂けました。

茶碗まつりの期間中に、文化財保護センター本館で開催中の企画展「土岐川と生きる～江戸時代の治水と窯業～」も特別に開館しました。こういった機会を通して、今後も多治見市の歴史や文化財について発信する活動を行っていきます。



▲ 展示風景



▲ 会期中の様子

## 将来の夢！ 職場体験



◀◀ 発掘作業の体験



▲ 遺物整理作業の体験（左：洗い、右：実測）

多治見市内の中学校では、職場体験を通して「働く」をテーマに自分の将来や生き方について考える取り組みを行っています。平成 27 年 10 月 15 日（木）・16 日（金）に小泉中学校 2 年生 2 名、22 日（木）・23 日（金）に陶都中学校 2 年生 4 名の職場体験を教育普及活動の一環として受け入れました。

職場体験の内容は、1 日目に文化財保護センターで主に行っている活動（①指定文化財保護②埋蔵文化財調査③教育普及）についての説明と、市内笠原町の現場で発掘体験を行いました。2 日目は、埋蔵文化財関係の仕事を中心に発掘現場から出土した遺物の洗いや接合、実測図の作成などを体験しました。どの生徒も歴史に興味があり、学芸員や考古学者になりたいといった理由で、文化財保護センターでの職場体験を希望しており、常に真面目に取り組んでいました。また、働くことの大変さを理解しながらも、職員や現場の作業員と楽しく触れ合いながら、今後の自分たちの進む方向性について見つめ直していました。

生徒たちが多治見市の文化財に関心を持ち、文化を守り伝えていくことの大切さや郷土愛を育ててくれたことは、文化財保護センターとしても有意義な活動であったと思います。

### 〈利用案内〉

開館時間：9:00～17:00 休館日：土・日・祝日、年末年始  
入場無料

### 〈交通案内〉

タクシー：多治見駅から約 20 分

バス：「美濃焼卸団地」下車 徒歩 5 分

多治見駅前発 臯ヶ丘 9 丁目行／可児駅前

多治見駅北口発 臯ヶ丘 9 丁目行／可児駅前

## 自然と人の文化

No.47 2016.3

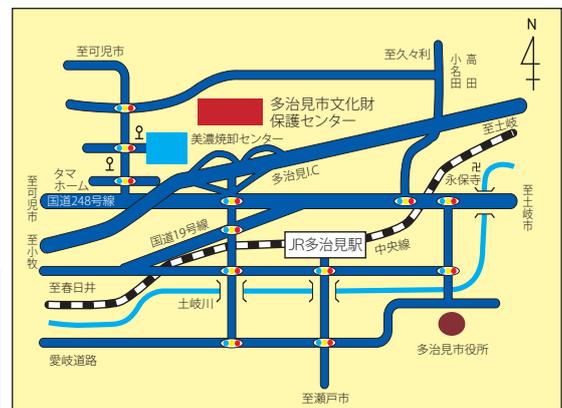
編集／発行 多治見市文化財保護センター

〒507-0071

岐阜県多治見市旭ヶ丘10-6-26

TEL(0572)25-8633 FAX(0572)24-5033

URL <http://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>



発行部数：1300 部（税抜 24,050 円）

この冊子は環境に配慮した紙・インクを使用しています。